

【資料8：リーフレット(新生児聴覚検査のご案内)】

新生児聴覚検査の流れ

きこえとことばのチェックシート

<3か月頃>

- 大きな音に驚く
- 音がする方を向く
- 泣いているときに、声をかけると泣き止む
- 話しかけると「アー」「ウー」など声をだす

<6か月頃>

- 音が出るおもちゃを好む
- 両親等よく知っている人の声を聞きわける
- 声をだして笑う
- 人に向かって声をだす

<9か月頃>

- 名前を呼ぶと振り向く
- 大きい声に、手を引っ込めたり、泣きだす
- おもちゃに向かって声をだす
- 「マ」「バ」「チャ」「ダ」などの声をだす

<12か月頃>

- 「ちょうだい」「ねね」等のことばを理解する
- 「バイバイ」の声かけに反応する
- 大人のことばをまねようとする
- 意味は伴わないが、さかんにおしゃべりする

ことばの発達には、個人差がありますので、気になる時はかかりつけの医師や市町村の母子保健担当課にご相談ください。

新生児聴覚検査のご案内

新生児聴覚スクリーニング検査

新生児聴覚検査の詳細は、かかりつけの産科医療機関、あるいはお住いの市町村の母子保健担当課にお問い合わせください。

2020年11月作成
沖縄県 子どもの未来センター

新生児聴覚スクリーニング検査とは・・・

新生児聴覚スクリーニング検査とは、生まれてまもない赤ちゃんを対象に行うきこえの検査です。きこえが悪いのは、目に見えず、2歳まで気づけないことが多いため、発見が遅れがちとなります。きこえが悪いことに気づけずにいると、コミュニケーションが取りにくだけでなく、ことばの発達が遅れるなどの影響が出てきます。新生児聴覚スクリーニング検査で、きこえが悪いことを早く見つけ、適切な治療や支援を受けることで、赤ちゃん自身の能力を十分に活用して、ことばの発達を促すことができます。

Q きこえに障がいをもつ赤ちゃんはどのくらいいるのですか？

A 生まれた時からきこえに障がいをもつ赤ちゃんは、1000人に1～2人と言われています。

Q 検査で「反応あり」でした。きこえに心配はありませんか？

A 検査した時点では、きこえには問題ありません。しかし、成長の過程で、中耳炎やおたふく風邪などによって、きこえの障がいがおこる事があります。今後も、きこえの様子に気をつけて、乳幼児健診等できこえとことばのチェックを受けましょう。気になる時は、かかりつけの医師や、市町村の母子保健担当課にご相談ください。

Q 精密検査ではどんな検査を行うのですか？

A 精密検査は、基幹病院の耳鼻咽喉科で耳の診察や脳波による詳しい検査を行います。診察や検査は、健康保険が適応されます。また、子ども医療費助成の対象となります。

Q 精密検査の結果、きこえに障がいがあると分かった場合、どうしたらいいですか？

A ご家族にとって、とても不安に感じることと思います。しかし、きこえの障がいは、早期より適切な支援を受けることにより、赤ちゃん自身の能力を十分に活用し、ことばの発達を促すことができます。特に両耳ともきこえの障がいの場合は、早期に専門的な支援を行い、聴能訓練・言語指導などを行う事になります。精密検査を行った耳鼻咽喉科の医師にご相談ください。また、片耳のきこえの障がいの場合は、基本的にことばの遅れの心配はありませんが、定期的な診察とことばの発達の確認を行う必要があります。

Q どのような検査ですか？

A 新生児聴覚スクリーニング検査は、赤ちゃんが眠っている間に音を聞かせて、その反応を記録し、自動的に判定を行います。赤ちゃんに負担はなく、10分程度で行うことができ、痛みや害はありません。検査は健康保険が適応されたため、自費診療となりますが、最近では、公的補助が受けられる市町村もありますので、市町村窓口で相談ください。

Q いつ検査を受けたいのですか？

A 出生後入院中もしくは生後1か月以内に行うことをおすすめします。生後1か月を過ぎると、起きている時間が長くなり、検査が難しくなるためです。

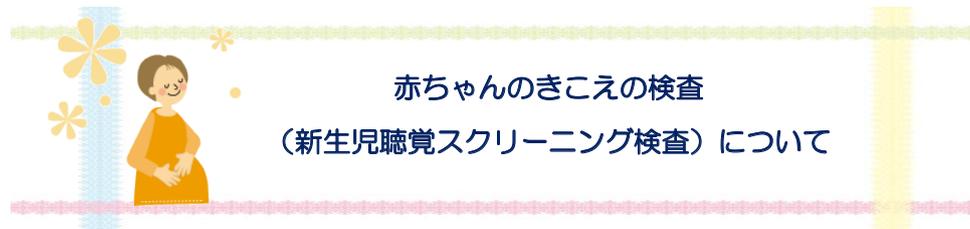
Q 検査で「反応なし」でした。きこえに障がいがあるのでしょうか？

A 検査結果が「反応なし」とは、「きこえが悪い」ということではなく、検査で十分に反応が得られなかったということです。生まれたばかりの赤ちゃんの場合、耳垢や耳の中に羊水が残っている等の原因により、正しい反応が得られないことがあります。基幹病院の耳鼻咽喉科で、もう少し詳しい検査が必要となります。

XI. 資料・様式

【様式1：啓発用リーフレット兼同意書 見本】

《様式1》 (新スク実施機関 → 保護者)



当院では、赤ちゃんのきこえの障害を早期に発見するために、新生児聴覚スクリーニング検査を行っています。検査を受けられることはお勧めしていますが、希望されるかは保護者の自由な判断となります。

Q. なぜ検査が必要なの？

生まれてくる赤ちゃんのうち、1,000人に1~2人が生まれつき耳のきこえに障がいを持つといわれていて、他の生まれつきの疾患に比べ多くなっています。また、きこえの障がいは「見えない」ため、2~3歳になって「ことばの遅れ」などで、初めて気づくこともあります。

しかし、きこえに障がいがある場合には、早く発見し、適切な治療や支援がなされることで、ことばの発達を促し、情緒や社会性を育てることができます。

Q. どんな検査なの？

当院では、自動聴性脳幹反応による検査（AABR）を行っています。

この検査は、赤ちゃんがぐっすり眠っている状態で小さい音を聞かせて、その時の脳から出る反応波形を測定し、耳のきこえが正常な波形と比較することにより、自動的に判定する検査です。眠っている間に検査は数分間で終わり、痛みや副作用もありませんし、お薬を使用することはありません。

Q. 検査の結果は？

検査結果は、「パス（pass）」または「リファー（refer）」のいずれかで、入院中に分かります。

「パス」の場合は、今のところ耳のきこえに問題ないといえます。ただし、進行性の難聴や中耳炎などにより一時的に難聴になることもあり、成長・発達の中で、きこえに不安がある時には医療機関に相談することが必要です。

「リファー」の場合は、今回の検査ではうまく判定ができないという意味で、詳しい検査を受けていただきます。新生児の場合、きこえが正常であっても、耳の中に体液が残っていたり、検査時の体動や啼泣のために「パス」しないことがあり、「リファー」は必ずしもきこえに障がいがあることを意味していません。

Q. 検査の費用は？

市町村によって公費負担があります。お住まいの市町村へお問い合わせください。



ご不明な点がございましたら、担当医や看護師・助産師又は地域の保健師にお尋ねください。

《様式1》 (新スク実施機関 → 保護者)



新生児聴覚スクリーニング検査結果の 関連機関および市町村などへの連絡について



1. 関連機関への連絡について

今回 行う新生児聴覚スクリーニング検査が「リファー」の場合は、下記の関連機関（琉球大学病院 きこえの支援センター）へ報告します。

きこえの支援センターでは、新生児聴覚スクリーニング検査を実施した機関より報告を受けると、二次・精密検査機関へ連絡をとり、診察日・検査日程を調整します。検査日程を調整することで、精密検査までスムーズに行う事ができます。

また、きこえの支援センターでは、年に1度 年間の検査件数と精密検査結果を報告し、沖縄県における新生児聴覚スクリーニング検査の実態を確認しています。そのため、今回の検査結果、精密検査の検査結果などの情報を収集しています。

【連絡先】 琉球大学病院 きこえの支援センター
医師：鈴木幹男 言語聴覚士：兼本怜子・新垣月乃・与座要
住所：西原町字上原 207 番地 TEL / FAX : 098-895-1739
ホームページ：https://kikoe.skr.u-ryukyu.ac.jp

2. 市町村への連絡について

今回 行う新生児聴覚スクリーニング検査が「リファー」の場合は、きこえの支援センターを通して、お住いの市町村の母子保健担当課へ報告します。

お住いの市町村では保健師が、赤ちゃんの健康や子育ての悩み全般について相談をお受けしていますので、結果を市町村の母子保健担当課に連絡することにより、お住いの地域における育児支援サービスや医療費などの公費負担制度について、スムーズに情報を得られるようになります。

3. 個人情報について

検査結果などの個人情報は、精密検査日の調整やお子さんご家族への支援以外の目的には使用されません。お子さまのプライバシーを守ることにしても、十分に注意を払いますので、検査結果などについて、関連機関およびお住いの市町村の母子保健担当課に連絡することに同意をお願いします。

ご不明な点がございましたら、担当医や看護師・助産師又は地域の保健師にお尋ねください。